
初恋

siruki

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

初恋

【Nコード】

N4428I

【作者名】

siruki

【あらすじ】

家族のような大切な幼馴染との話。 男性視線。

ずっと好きだった。

そう言える。

だまし続けた日々からやつと解き放たれた。

確かに、忙しくてそんなことを考えている暇すらない時もあった。けれど、心の底に確かにあった。

それが今なら切に分かる。

ずっと…ずっと、どんな時だって君を想っていたことを。

君が、彼氏が出来たと報告してくれた時も。

彼氏の怪我を心配している君の相談にのっている時も。

彼氏の愚痴を聞いている時も。

一緒に笑ってる写真を見せてくれた時も。

僕は笑えてたかな？

君が無邪気に笑えるように。

幸せであるように。

君と出会ったのは、いつだったんだろうか。もう思い出せない時間が経ってしまった。

けど、覚えている。

初めて会ったときに一目ぼれしたことを。

4、5歳の他愛もない恋だったけど。

それでも確かに恋に落ちた。

臆病な僕は想いも伝えられず。
一緒にいるだけで満足していた。
いや、満足しようとしていた。

気がつけば、大人になっていた。
スーツを着て、電車に乗って、愛想を振りまく日々。

何もかもが嫌になった。
会社も辞めた。

それを告げた時も君は僕を優しく包んでくれた。
劣等感に苛まれる僕を。

それだけで前に進める気がした。
もう一度頑張ろうと思えた。

それから一生懸命に進む日々。
勇気を出して、君との距離も縮めてみようと思った。
今まで恋愛なんてしたこともない僕が。
一世一代の勇気を込めた。

なかなか「好き」の言葉が言えずに震える身体。
君は僕の気持ちに気付かず、「どうして緊張してるの」って笑った。
いつも通りの君に、昔と同じ君に…また勇気をもらった。

20年の想いを込めて…言葉を紡ぐ。

君はすごく驚いた顔で僕をみた。

そんな顔に「してやった」と心の中で思った。
二人とも手で赤く火照った顔を隠す。
沈黙が場を支配する。

初めての空気に戸惑いながらも答えを待つ。

「考える時間が欲しい」

真摯な瞳。

僕はうなづいた。

眠れない時間を過ごしながら1週間を過ごした。
再び訪れる緊張の場。

話は君から切り出した。

「今までのままで……」

僕は頷いた。

いつものように。

いつだって上手くやれた。

だから今度も大丈夫。

こんな結果になるのは分かっていた。

君を見れば、君の声を聞けば。

良いも悪いも分かかってしまうのだから。

「大切な人」

君が僕告げた言葉。

何て曖昧な言葉だろうか。

どれだけ大切でも、それだけでは恋人になれない。

君の言葉を遮るように、僕は言葉を告げた。

君の優しさが辛かったから。

そして、いつもの二人に戻った。

君の笑顔を守るために。

君の幸せのために。

胸の奥にある気持ちはいつ消えるのか。

後悔はない。

やっと一歩を踏み出せた。

だけど、少しだけ。

少しだけ……。

(後書き)

私のここでの初の作品です。

小説というより詩に近い気もしますが、

広く短編小説と見て頂けると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4428i/>

初恋

2011年1月20日03時40分発行